

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	設立者からの理念である[楽しく・自由に・ありのままに]を継続し、生活フロア入り口正面に掲示され、見易くなっている。		特に利用者の自由な雰囲気が感じられた。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念に有るように、自由な雰囲気が職員の取組みによって感じられる施設である。		利用者、職員共に笑顔が多く見られた。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	施設として自治会に参加し、定例の地域清掃等には職員ができるだけ参加している。また、老人会長にも運営会議の参加を得ている。		施設が率先して地域清掃等に参加しているとのこと。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	利用者の安全を大切に、以前からの評価から改善に向け継続されている。		限られた状況の中に職員の努力がうかがえた。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度、地域包括・老人会長・Nsの資格を持つ家族等が参加し運営されている。	○	今後、市などの参加に努められたい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	日常的な質問等には電話や直接の訪問を通して連絡を取れている状態である。		特に事務職が窓口となり市との連絡を取っている。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の訪問も多く、日常的に意思の疎通は取れているようである。しかし、会計報告は毎月おこなっているものの「施設だより」は半年に1度とのことで、会計報告にあわせ簡単なコメントを付け添えられたい。	○	施設だよりの工夫に余地があるため、今後検討されたい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の訪問が多いため、日常から意見を聴くことができています。		訪問者ノートには家族と思われる方の記入が多く見られた。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	2～3年に1名程度の人事異動しかなく安定した状態と言える。今後も現状を維持されたい。		職員間で話し合うことのできる関係ができ、意見交換もスムーズである。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	市などが開催する研修に職員が参加している。しかし、職員の配置等の事情により出勤日としての参加が難しい状態である。	○	今後、できるだけ調整等を行って職員研修に積極的な参加体制を整えられたい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	年に一度の地域包括主催の交流会や、近隣の親しい施設との交流が月に1度行われている。		特に親しい施設とは頻繁に情報交換を行いつている。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	1日の流れは余裕を持った状態で作成され、その方の状況に応じて進められている。また、1週間や1ヶ月単位のスケジュールはカレンダー等で設定されている。		利用者同士が仲良さそうに会話している。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	食事や洗濯などの家事を中心として、その方の精神や身体の状態により参加を促している。		食事の後片付けを生き活きたとした雰囲気ですされていた。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の観察から状況を把握すると共に、ミーティングを通じて情報の共有に努めている。		1日の流れに添って、細かな記録がされている。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	運営推進会議の内容を加味し、日常的なミーティングや申し送りにより行われている。		フロアのリーダーを中心にスムーズな人間関係がうかがえた。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	通常、ケースカンファレンス2ヵ月に1度行い、利用者の状況の変化に応じ臨時カンファレンス等を開き対応している。		日々のサービス提供の中にもちょっとした情報交換が行われている。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家事への参加や日常的なレクリエーションで柔軟な対応がされている。		演芸のボランティアなどの受入も有り、楽しそうな写真が掲示されている。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られただけかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2回協力病院からの往診があり内科の診察が行われている。また、歯科は月に4回の訪問がありデンタルケアが行われている。		ちょっとした相談でも病院にできる関係ができています。
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族の訪問回数が多いことから、できるだけ早い段階で今後の方針の相談をおこなっている。また、病院との協力により、寝たきりに近い状態から車椅子での生活が可能となった方も居られた。		病院にも家族の意向などを伝え易い関係である。
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	各利用者の居室への入室時にはロックと声掛けのが実行されていた。		記録時、急な利用者対応もあるため、ファイルが利用者のすぐ手の届く場所に放置される場面も見られた。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者同士の関係やその方の状況を把握し、支援されている。また、記録として引き継がれている。		寝たい利用者は居室で、テレビなど共有スペースでと自由な雰囲気であった。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事については、ご本人などからアンケートを取り希望に応じた献立も取り入れられている。		栄養士などからの意見も今後協力病院などに相談していくことが望まれる。
23	57	○入浴を楽しむことのできる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間や回数は季節や利用者同士の不公平に対する不満の出ないように配慮されている。		季節により、浴槽への入浴とシャワーの両方の対応がされている。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	家事等の手伝いの他、レクリエーションの参加率が高く、毎日のプログラムに殆んどの利用者が参加している。また、全体で参加できない利用者には、個別の対応も見られた。		ラジオ体操やスマイリー体操など職員が中心となり身体を動かすプログラムも用意されている。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の嗜好品等の購入を含め近隣への買い物兼散歩が行われている。また、季節に応じ近隣公園への花見なども行われている。		行事の写真などが掲示され、訪問時も利用者が楽しそうに説明をしてくださった。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	危険な場所以外は鍵をかけないよう取り組んでいる。	○	グループホームは2階にあり1階からの階段はかなり急で危険と言わざるを得ない。散歩など出かけるときはエレベーターを使って出かけるが此処も日常的には鍵が掛かっている。「安全性と閉塞感の無いホーム」この難しい問題を乗り越えられることを期待する。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害等の対応マニュアルが職員や利用者の目に付くところに掲示しており、避難訓練等も行われている。また、自治会等に有事の際は協力が得られる体制が整っている。		認知症の方に配慮し非常ベルの作動等にも工夫されていた。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分や排泄の表が作成され、日常的に支援されている。しかし、栄養面では職員の考えた献立と利用者の希望に合わせたものである。		献立の組み合わせが複数有り、飽きないような工夫がされている。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	歌のレクリエーションや演歌の歌詞、写真など馴染みやすい物が掲示され、工夫されている。		テレビを見ながら利用者同士の談話が見られた。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には利用者本人の馴染みの物が持ち込まれている。		居室以外にひとりになれるスペースの確保が望まれる。